

『映画 ○月○日、区長になる女。』

監督：ペヤンヌマキ

プロデューサー：松尾雅人

出演：杉並区民のみなさま

音楽：黒猫同盟（上田ケンジと小泉今日子）／向島ゆり子／
ブランシャール明日香

2024年／日本／110分



公式サイト

全国公開中
製作・配給・宣伝・著作：
映画 ○月○日、区長になる女。製作委員会
©2024映画 ○月○日、区長になる女。製作委員会

社会を旅する シネマ

きっともっと 近くなる
きっともっと 知りたくなる

「みんなでつくるみんなのまち。みんなのことはみんなで決める」。民主主義の根幹ともいえる言葉だが、空虚な理想論にも聞こえてしまう。それほど政治に対する諦めは大きい。しかし本作はこの言葉を現実に貫こうとする人びとを映し出す。

2022年、東京都杉並区の区長選が行われようとしていた。3期12年務める現職区長の区政を変えるべく、市民団体「住民思いの杉並区長をつくる会」が立ち上がった。その擁立で候補者となったのが岸本聡子氏だ。長年、海外を拠点に公共政策を研究し、市民運動をサポートしてきた。本作は岸本氏と彼女を応援する杉並区民たちの選挙活動を追った記録だ。

選挙の結果はよく知られるとおり、岸本氏が187票の僅差で勝利。その背景には何があったのか。

本作が見せる岸本氏のユニークさのひとつは因習にとらわれないことだ。政治家の服装にかかわる暗黙のルールや、名前を連呼するだけの選挙活動などに、本質的な意味を見いだせなければ、どんどんはみ出していく。ささやかに思えることであれ疑問をもち、違う道を選ぶことを恐れない人こそが、よどみ硬直化した政治に飲み込まれない人物だろう。

また、岸本氏は演説などの自己紹介でよく「聡子の聡は耳偏に公と心。つまり人びとの心聞くんです」と話す。この言葉のとおり、とにかくよく「聞く」。街宣を始めたばかりの頃は毎回周囲の人に「どうだった？」と意見を聞く。各所で積極的にタウン

一人ひとりの力が引き出される 本当の民主主義の希望を映す

アーヤ藍

ミーティングを開き、区民がどんな困りごとや不安をもっているか聞く。道路拡張工事の立ち退き区域となっている商店街も回り、リアルな声を聞く。ただ聞いているだけではない。自分の意見もしっかり伝え、ゆえに住民と意見がぶつかることも。だが、両者が対等に言い合う姿も新鮮だ。政治家を「先生」と祭り上げるようなあり方とは全く異なる。

「言いやすさ」に加えて「かかわりやすさ」もある。岸本陣営には区民が次々と集まってくる。事務所を念入りに掃除する人、チラシの折り込みや電話かけを行う人、さらにはひとりで杉並エリアの各駅で旗を掲げ投票を呼びかける「一人街宣」も広がっていく。表に立つような場に女性が多いのも印象的だ。

みんなが自分ができることを自発的に持ち寄り育まれていく現場は、一人ひとりに声があり力があるのだと感じさせてくれる。それにエンパワーメントされ、政治の世界に「自分ができること」を見いだす人たちも……。

不確実性の高い社会においては旗を振り、引っ張ってくれるような強いリーダーが求められるとよく言われる。しかしむしろ一人ひとりの可能性を引き出すようなリーダーこそが新しい未来を拓くのではないだろうか。市民の力を信じる、すなわち他者をリスペクトするリーダーこそが……。信じられ、必要とされれば、市民はものすごい力を発揮することをこの作品は証明しているのだから。



アーヤあい：映画探検家。1990年生。慶應義塾大学卒。在学中に訪れたシリアが帰国直後に内戦状態になったことをきっかけに、社会問題をテーマにした映画の配給宣伝を行うユニテッドピープル(株)に入社。同社取締役副社長も務める。2018年独立、映画イベントの企画運営や記事執筆等を行う。

